

[オリエントの統一 その1]

〈アッシリア〉：セム語系 都：アッシュル→ニネヴェ

- 前7世紀前半…エジプトを含めたオリエントの主要部分を征服し統一。
- 強制移住、重税など過酷な支配で統治をした。
- アッシュル=バニパル王のとき領土は最大になり、ニネヴェに大図書館を建築。

⇒高圧的な政策に1世紀も持たずに服属民族の反乱で滅亡。

〈四国分立時代〉…アッシリアの滅亡以後、四王国が分立。

**新バビロニア(カルデア)**…都はバビロン。セム語系。

肥沃な三日月地帯を支配する最も有力な存在。

前586年にバビロン捕囚を行った。

**リディア**…インド・ヨーロッパ語系。世界最古の鑄造貨幣を使用した。

**メディア**…都はエグバタナ。インド・ヨーロッパ語系。

小アジア東部～インダス川付近まで、広い領土を持つ。

**エジプト**…第26代王朝。

<領土がでかいほうがメディアなので、マス=メディアと覚えよう!!>

⇒四王国はエジプトを除いて**アケメネス朝ペルシア**のキュロス2世に滅ぼされる。

→アケメネス朝はエジプトを滅ぼして、オリエントを再統一。

[オリエントの統一 その2]

〈アケメネス朝ペルシア〉…インド・ヨーロッパ語系ペルシア人

都：スサ 国教：ゾロアスター教

初代：キュロス2世

メディアを滅ぼして自立した後、新バビロニア、メディアを滅ぼす。

2代：カンビュセス2世

エジプトを滅ぼしてオリエントの統一を果たす。

3代：ダレイオス1世

サトラップ(知事)を派遣するなど、中央集権体制を強化して全盛期を築く。

祭祀のための都市であるペルセポリスの建設。

→前500年～ ペルシア戦争(vs ギリシア)

のち前449年にアケメネス朝はペルシア戦争に敗北。

⇒前330年…アレクサンドロス大王(マケドニア王国)の東方遠征で滅ぼされる。

〈アケメネス朝の政治〉

- ・サトラップ(知事)を各州に派遣し治めさせる。
- ・『王の目』『王の耳』という監察官にサトラップを見張らせて報告させる。
- ・国道『王の道』を建設。有名なものはスサ～サルデスまでの距離を走る。
- ・国道の途中で宿舎を設ける駅伝制を施行。
- ・楔形文字の一種であるペルシア文字を使用。
- ・国教をゾロアスター教に定める。

〈ゾロアスター教(拝火教)について〉

- ・中国名…祆教：後に中国に伝来する。
- ・善の神：アフラ=マズダと悪の神：アーリマンの戦いののち、アフラ=マズダが勝利して善人、悪人の審判を行う。：最後の審判

→その後、最後の審判で善人の魂は救済されるという思想。

※この考え方は後にユダヤ教・キリスト教に影響を与えた。

- ・火や光の崇拝を行ったことから拝火教とも呼ばれる。

〈楔形文字の解読〉 ←ハイレベル

18世紀後半…ドイツのグローテフェントがペルセポリス碑文から解読の手掛りを得る。

19世紀前半…イギリスのローリンソンがダレイオス1世の残したベヒストゥーン碑文をもとに解読。